

東海道五十三次を往く

第42回

水口宿

道が三本に分かれる
特徴的な「三筋の町」

城下町でもあった水口宿。豊臣秀吉の命により築城された水口岡山城は、関ヶ原の戦いで落城。その後、將軍徳川家光が上洛する際の宿所として水口城が築かれ再び城下町として栄えた。東見付跡から進み、県道を渡ると脇本陣跡、本陣跡があり、高札場跡が見えてくる。ここから道が二手に分かれ、東海道は左に進むがすぐにまた二手に分かれる。今度は右手が東海道だ。この三つの道は平行に伸びており1kmほどで再び合流する。これが「三筋の町」と呼ばれ、水口宿の特徴的な町並みを作り上げている。



写真提供：甲賀市産業経済部観光企画推進課

名物干瓢

広重が描いた「名物干瓢」は、女性がユウガオを細く削って縄に干し、かんびょうを作っている様子。この絵の場所は特定できなかったが、かんびょうは今でも水口の特産品で、夏にはかんびょうの天日干しの光景が見られる。

水口祭の曳山を模した、からくり時計が



東海道の左右にそれぞれ道が分かれ、並行して伸びた後、ふたたび三本が合流し道が紡錘状になっている。



東見付跡

水口宿の東端に位置する東見付(江戸口)の跡。冠木門が復元されている。



甲賀市ひと・まち街道交流館

近江鉄道の水口石橋駅の近くにある交流館で、水口宿の歴史や文化、特産品などを紹介している。



三筋の町・水口宿 高札場跡を過ぎると、写真のように東海道は二手に分かれる。この後、さらに二手に分かれる。

街道の土産

水口干瓢

400年以上の歴史があるといわれる水口のかんびょうはふんわりとした柔らかさが特長。

甲賀市ひと・まち街道交流館

☎ 0748-70-3166
滋賀県甲賀市
水口町八坂 7-4



五十三次

三筋の東海道沿いにある明治33(1900)年創業の和菓子店、長田屋の「五十三次」は大名籠を模した紙箱に懐かしい風味の干菓子5個入っている。

長田屋

☎ 0748-62-0458
滋賀県甲賀市
水口町本町 1-7-7



水口城跡(水口城資料館)

徳川家光の宿所として築城された水口城は二条城を模して造られ、小堀遠州が作事奉行を務めた。薬研堀に青々とした湧水をたたえ、別名「碧水城」とも呼ばれていた。水口城資料館では水口城に関する資料を展示している。



「写真でたどる、現代の東海道五十三次を往く」 上・下巻好評発売中!

人気連載「東海道五十三次を往く」を書籍化。定価は上・下巻各1,650円(税込)。お求めは全国の書店、ネット通販などから。



お求めは
こちらから!

